

経済財政政策部局の動き：政策の動き②

「教育」と人々の満足度

政策統括官（経済社会システム担当）付
参事官（総括担当）付

森近 祐介*

はじめに

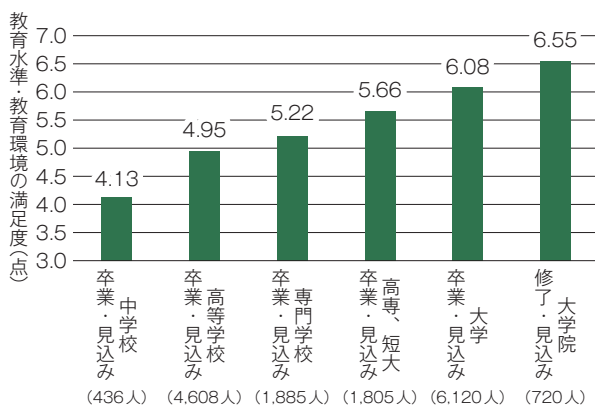
教育は、個人に対して読書や芸術といった本質的な楽しみをもたらす活動を可能にし、高度な教育を受けることは仕事の報酬や雇用の状況にも良い影響を与え得る。また、社会全体においても政治的・経済的な安定性等の利益を生み出すものである。

本稿では、本年9月11日に内閣府が公表した「『満足度・生活の質に関する調査』に関する第4次報告書」を基に、教育に関して得られた示唆の一部を紹介したい。

「教育水準・教育環境」の満足度と最終学歴との関係

「満足度・生活の質に関する調査」の回答者の最終学歴と「教育水準・教育環境」の満足度との関係を見ると次のとおりとなる（図表1）。

図表1 回答者の最終学歴と「教育水準・教育環境」の満足度



最終学歴が高いほど、「教育水準・教育環境」の満足度が高い傾向が見られ、中学校卒業・見込みの者と大学院修了・見込みの者とは2ポイント以上の大きな差がある。

この傾向は、回答者の年齢層や世帯年収といった属性を調整しても確認でき、「教育水準・教育環境」の満足度と回答者の最終学歴の間には相関関係があると言える。

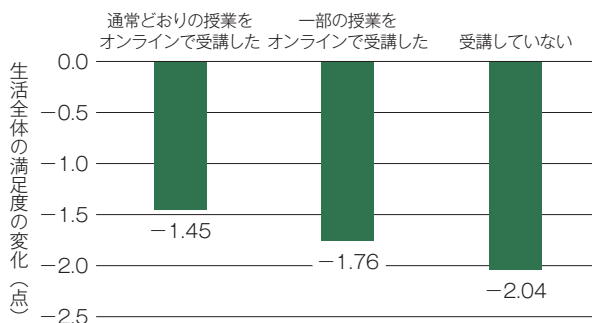
また、都道府県別の「教育水準・教育環境」の満足度の平均値と「大学進学率」の間にも相関があり（相関係数0.466）、「大学進学率」が「教育水準・教育環境」の満足度・生活の質を表す指標群の一つとして有効であることが示唆される結果となった。

オンライン授業と生活全体の満足度

新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」と記載）の拡大は、人々の生活に大きな影響をもたらした。現在では対面授業が一部再開されているが、多くの大学では感染症の拡大に伴い、授業の休止やオンライン授業が実施された。では、オンライン授業の受講の有無によって、感染症の拡大前後における学生の生活全体の満足度の変化に差はあるのだろうか。

内閣府が本年5月に実施した「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」によると、次のとおりであった（図表2）。

図表2 大学生・大学院生のオンライン授業の受講と生活全体の満足度の低下幅



オンライン授業を受講していない学生と比べて、通常どおりの授業をオンライン授業で受講した学生は、満足度の低下幅が小さいことが分かる。感染症拡大に対応するためのオンライン授業の実施は、学生の生活全体の満足度に正の効果を与えたと言える。

おわりに

教育分野では今後、効果的な遠隔・オンライン教育の実現や、ICTの利活用による全ての児童生徒に個別最適化された学習計画の作成などといった取組が進められることとなっている。

人々の教育に対する意識や期待は、時代や社会のあり方により変容するため、引き続き、人々の満足度とその背景にある経済的・社会的条件について調査を行い、時代に即した示唆を得ていくことが重要である。

森近 祐介（もりちか ゆうすけ）

*香川県庁より内閣府に派遣